

研究・調査報告書

報告書番号	担当
174	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
The importance of drinking frequency in evaluating individuals' drinking patterns: implications for the development of national drinking guidelines. 個人の飲酒パターンを評価する際の飲酒頻度の重要性：飲酒ガイドライン開発のための示唆	
執筆者	
Paradis C, Demers A, Picard E, Graham K	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addiction. 2009 Jul;104(7):1179-84. Epub 2009 May 11.	
キーワード	
アルコールの飲酒頻度、一日当たりの飲酒量、暴飲頻度、カナダ	
要 旨	
目的: アルコールの飲酒頻度と、日ごろの一日当たりの飲酒量、飲酒頻度と暴飲頻度との関係を、年齢と性差を考慮して調べた。	
参加者と研究デザイン: 飲酒習慣のある 10,466 人(5743 人の女性と 4723 人の男性)で、18-76 歳の GENACIS カナダ研究(GENder Alcohol and Culture: an International Study)の参加者を対象に実施した。	
実施場所: カナダ	
測定値: 1 年当たりに飲む頻度を独立変数とした。毎日の飲酒量、1 年当たり、1 月当たり、1 週当たりのアルコールの暴飲回数(1 回に飲む量が 5drink 以上)を従属変数とした。	
結果: ロジスティック回帰で、(i) 毎週飲む人に比べ、1 週間あたりに一回以下しか飲まない人は飲酒する際に 2drink 以上飲むことが、より少なかった。(ii) 毎週飲む人では、毎日の飲酒量はその飲酒頻度と関連しなかった。しかし、(iii)大量飲酒の頻度は飲酒頻度の増加と関連がみられた。	
結論: カナダ人においては飲酒頻度の増加に伴って大量飲酒の頻度と危険が増加しており、適量飲酒を勧める公的な勧奨を十分に行うべきである。	